#### 展景

季刊

No.96



### 季刊 展景 96号

#### 目次

が り (信を) おおい おおい おおい おおい おおい おおい おおい おおい おおい おお	4
<b>ケメテル〈俳句〉 新野祐子</b>	6
<b>껼明な秋 〈短歌〉</b>	8
<b>                                      </b>	10
<b>ル月の庭に〈短歌〉 小野澤繁雄</b>	12
☆回風あとさき〈短歌〉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
舉京歌会(第八十二~八十四回) ⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	16
那須通信 41〉 This Must Be The Place ——きっとここが帰る場所	
	20
薫風颯々 16   文化のことをつらつらと 神村ふじを	24

掌の上の青梅よき匂ひ

ひもじさも今は懐かし終戦日

紫

陽

花

K

雨

ぽ

9

ぼ

9

と

訪

ね

る

露草のこぼせる瑠璃の一雫

き O笑 子 顔 写 K す 鎮 魂 か 秋  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ لح 水 虫  $\mathcal{O}$ す 面 だ

逝

秋

深

忽

然

と

子

は

消

え

 $\wp$ 

き

X2

子

秋の夜や逆縁に唯痛哭のみ

哀しみの声かもしれず鉦叩

むら雲に隠れ現れ今日の月

展景 No. 96

ピサッコピサピサ鵯鳴く窓を全開に

三日月が風雨に揉まれ弱い私

ふるさとの誰そ彼淡し赤まんま

若き友逝く虫時雨夜も昼も

花野揺れやまず

自

裁

O

友

ょ

大

貝

割

菜

か

<

b

さ

ゃ

け

き

草

 $\mathcal{O}$ 

息

台

風

過

デ

メ

テ

ル

 $\mathcal{O}$ 

還

り

来

ょ

ネ

ツ

シ

か

Ш

か

台

風

去

り

瀞さ

か

B

か

0

子

K

遇

61

泪

寒

か

な

稿 き

傷い

O

無

垢

لح

う

白

さ

初

七

H

で

す

7 展景 No. 96

#### 透 明 な 秋

布宮窓子

T キ T カネ 朝 O冷 気に 止まり か 7 時 間を共にす起き 抜 け  $\mathcal{O}$ 吾<sup>ぁ</sup>と

玄 関  $\mathcal{O}$ 脇 13 八 手  $\mathcal{O}$ 青を お < 勢至 観 音 0) 上は 町ま あ た n

魔 除 け だと 友 が言 Š か 5 梅干 を 食 ベ 7 朝も の<sup>た</sup> 家を 出 で た

叔 母  $\mathcal{O}$ 去る 夢だ 0 た  $\mathcal{O}$ か 目 0 む ŋ 7 名を 0 Š やきぬ た らちね 0

0 な が Ŋ 7 か る 赤 لح  $\lambda$ ぼ 金 色  $\mathcal{O}$ 光 O中 を 湧 くごとく 飛

黄<sup>も</sup>乗
ち 7 里 O景 色 は 安 5 け n ょ n は 葉を落と す な 秋

澄 6 で か る 空気  $\mathcal{O}$ 中 を 行 くときに わ れ ₽ 澄 2 た ŋ 透 明 な

正 面 13 見える は 月  $\mathcal{O}$ 山 な り 7 預き白 な り VΦ

短 Н  $\mathcal{O}$ 空 見 上 げ れ ば 浮 か び た る 力 ン パ  $\equiv$ ユ  $\mathcal{O}$ ゃ う な 丸 61 月 な n

わ が 影 は わ れ を 離 れ ずそろそろと 付 61 7 きてを n 夜  $\mathcal{O}$ 散 歩

市川茂子

夫言 逝きて子 O購 11 O墓所 13 心 向 くまま折 節 K 訪と う

11 0  $\mathcal{O}$ 日 か 親から  $\mathcal{O}$  $\mathcal{F}$ と 13 帰 Ŋ Ø 墓所  $\mathcal{O}$ 8 ŋ 13 コ ス モ ス 咲 け

此 岸 ょ n 彼岸を思う墓参り 花 た む け 0 9 心 残 7

長 らえ 7 即 位  $\mathcal{O}$ 礼 を見るときに テ レ ビ  $\mathcal{O}$ 前 は わ n 0) 領域

代 替 わ n  $\mathcal{O}$ 玉  $\mathcal{O}$ 儀 式 13 巡 り 合う慶 び  $\mathcal{O}$ H は 穏だ ·過 ぎ 7

虹 か か る 街 13 寿 即 位  $\mathcal{O}$ 礼 万歳  $\equiv$ 唱  $\mathcal{O}$ 声 上 が り た

明 け 方  $\mathcal{O}$ 路 地 は 濃 霧 13 覆 わ n 7 ゴ ミ出 しま で を 中 入 ŋ Ø

早 朝  $\mathcal{O}$ 街 に た だよう濃霧なり たちまち消え 7 きまたあ 5 わ

لح り Ŋ 0) バ ラ  $\mathcal{O}$ 鉢 植 え設え 庭  $\mathcal{O}$ 静 け さ 常 通 る 道

庭見えて 鉢 植 え  $\mathcal{O}$ バ ラ 丈高 ほ 9 ほ 9 咲 け n 秋 か 5

11 展景 No. 96

### 九月の庭に

小野澤繁雄

公 京  $\mathcal{O}$ 片 す み 13 7 数 が 飛 ž 増 殖 が あ る あき 0 b 飛  $\lambda$ で

終端 は 処 理場 を  $\sim$ 7 光 な か な が n 出 る b  $\mathcal{O}$ そ  $\mathcal{O}$ 音をき

斤 を六枚 切 り 13 7 b 5 ジ に 人 を 待 たせ 7

梨 畑  $\mathcal{O}$ に  $\mathcal{O}$ 7 旬 碑 V 0 村 に およ  $\lambda$ だ熱  $\mathcal{O}$ 名 残 ŋ か

下 む 13 7 ア ン ダ パ ス を 渡 ŋ 13 す n 違 11 7 目 13 自 転 車

長 々 鰐  $\mathcal{O}$ か た 5 0 浮 袋 腹 Z せ 7 61 る 九 月  $\mathcal{O}$ 庭

どこまでも 遠 < は 遠く 秋 O雲 は る か 12 先 12 車 61 す 人

袁 き わ は バ ス 0 乗 り 場 13 若 61 人昔二 人を云う コ  $\vdash$ バ あ n

ダ IJ T  $\mathcal{O}$ そ 0) 交 配 種 皇 帝  $\mathcal{O}$ た か さは な 秋 花

さえ 5 n 存 続 中  $\mathcal{O}$ 館 に 観 る 議 論  $\mathcal{O}$ な か  $\mathcal{O}$ ユ 日 ク 公共 図 書 館

#### 台 風 あ と さ き

河村郁子

十 月 O巨大台風発生よ ŋ じわ ŋ Ü わ ŋ لح 接近すな n

台 風  $\mathcal{O}$ 名は *7* \ ギビ ス にて「すば ゃ 61 \_\_\_  $\mathcal{O}$ フ イ 1) ピ ン 語と予報 士 の言ふ

六 日 予 報 進路 13 安からず経験 なきほ ど強大と 0)

大 型 は 数十 年 13 度とも 水と電池とガ ス ボ ン ベ

日 伊豆半島 に 上 陸 す 夜半  $\mathcal{O}$ 強 風 豪雨 ゃ ŋ 過ごす

大事なき台風 過 と は な ら ź̈ りき 氾 濫 洪 水  $\mathcal{O}$ 被害甚大

遠 近く 眺 め 7 心 安らげ か 0 千 曲 Ш  $\mathcal{O}$ 無 残 映 さる

Щ 間  $\mathcal{O}$ 豪雨恐 ろ 時差もちて 河 Ш 0 決 壊 か 所 な b

痛

ま

しき置き土産

な

ŋ

十

H

後

B

避

難

所

暮

5

匹

人とぞ

政に治山治 日ヤ 本パ B

水 は 基本理念イ ン フ ラ 0) 面 目 あ n

### 東京歌会 (第八十二回)

展景 No. 96

16

野澤繁雄、 二〇一九年八月十五日(木)、会場・文京区立アカデミー音羽 松井淑子)。 洋室A。詠草は各二首八首。 出席者二名(小

## 杖つきて電車にの れば若者が見て立ち上がる白髪か杖か

-川禮子

男の子だろうか。 たぶん、 場面は判りやすいが、やや複雑な思いがあるようで、面白さがある。)立ち上がったのだ。何を見て、その判断はきたんだろう、がこの歌 がこの歌の眼目。若者は 今の話でもある。

### ポ ツ プコー ン爆ぜるに似たり真夏日の身の置きどころ葉擦れも絶えて

態 (結句)。 商売のこと、 ある限度感。身の置きどころ、 上旬にやや懐かしさ。 過去が話題になった。 のさがしてもないような暑さ。その上に、風も止んでしまっている状 ポップコーンの材料、 や、 とっかん(や)としての村々をめぐった

# 東京に荷物を送る楽しさよトマトにキュウリ隅にはお菓子

布宮慈子

じぶんにも覚えがあるが、この歌のようなのだった。隅にはお菓子、 二首目から、東京に住むのは娘。 野菜も地のものか。地方に親、 子が出郷しているという関係には、 に母娘の間の距離感が出ている。

# 子を帰しそのあとのこと図書館に長くも読んでその間は雨

小野澤繁雄

た。独りになる家にすぐにはもどりたくなかった? (休みにきてか) 帰っていった、その見送りのあとでのこと、図書館で長い読書をすることになっ 長くも、 は雨だったから? 解りにくいという。

### 東京歌会 (第八十三回)

出席者三名 九月十九日(木)、会場・文京シビックセンター (市川茂子、 小野澤繁雄、 松井淑子)。 四階シルバ ーセンター A会議室。 詠草は各二首六首

## 移り来り し部屋にミシンの位置きめてあとはゆるゆる荷をほどきつつ

市川茂子

現に 移り来し。引っ越してきた。家でなく、部屋に、とあるところ。ミシンの位置決めがまず必要なのは、 (仕事に) ミシンをつかっている、つかうから、なのだ。 生活ぶりがみえるような歌。 ミシンだという。 ミシンメー カーも話題になった。 蛇の目(ジャ

展景 No. 96

11 かにも高校生というか、 チャリ、はチャリンコとも。自転車のこと。裏道でないみちは表通りか。こちらは込んでいるのか。 魚のようにすり抜けて、 がいい。そう長い距離ではないようでもある。

# 百日紅と松の木かげの畑小さ今日ふたり出て草刈りしおる

小野澤繁雄

みることになった畑。 百日紅と松の木があるという。本格的でないような畑。二人は夫婦か。畑仕事で人がでていることで 休日かもしれない。人がでていることの少ない畑や田、そんな今のこともある。

## 東京歌会(第八十四回)

出席者三名(市川茂子、 十月十七日(木)、会場・文京シビックセンター四階シル 小野澤繁雄、 松井淑子)。 バーセンター和室二。詠草はおおよそ各二首七首。

# 大嵐止めるすべなしその高み広がる秋の澄む空あるに

市川茂子

(すでに画像がある) には現在があり、 二句切れ。その高み、に歌のアクセントがある。(見上げる空ばかりでなく、) 想像のはたらく余地もある。 それでも、 すべなし、 上空から見下ろす視線 なのだ。

# 厨べに朝の支度にかかる時湿布はずせり腱鞘炎の

林 博子

朝食であり、 デスクワークの気配もうかがえる。 とりあえず主婦の歌。 その支度。湿布もそのときまではしていた。結句は説明だが、 厨べ(やや古い云いかた)、と朝の支度には関係がある。独りではなく家族の 腱鞘炎には家事のみでなく

## 隔年の 「ドキュ山」 が来て八日間まちへ繰り出す映画観るため

布宮慈子

所でなく、監督も来ているようだ。 ちへ)繰り出す。結句や、 のときは、 「ドキュ山」は山形国際ドキュメンタリー映画祭のこと。こういう短縮形があるのか。 朝日新聞で記事を読んだことがある。歌はやや紹介になっているが、 隔年の、 八日間、 など手際がいい。ある期待感も伝わっている。 (映画) この前の映画祭 祭なので、 上映は一ヵ **(ま** 

## 大風に吹きあげられてひとところ藁のみちなる踏んで通り ź

小野澤繁雄

は比喩。 入れは今は田んぼごと。田んぼごとで銘柄が違っていたり、 台風の風。 ひとところ、 は刈入れの終わった田んぼのあるところ、そこで藁が吹きあがったもの。刈 刈入れの時期も違っている。 藁のみちなる

(報告:小野澤繁雄)

### 〈那須通信41〉

## This Must Be The Place きっとここが帰る場所\*

たま市の借家が立ち退きになり、 それまで一度も来たことがなかった。 家捜しをするうちに那須をおとずれたのがきっかけで住人

を下りた時の目の前にひろがるコナラの雑木林が美しくて、 かつて旅したヨ  $\Box$ ツ パ  $\mathcal{O}$ 

どうぞいらっ いと招かれているようにも思え、 親しみを覚えた。

地域 のことも 0) 風景に魅せられて移住を決めた。

あぶなっ しい資金繰りのなか、 たくさんの方々 お力添えを得て、 那須での生活が実現した。

それから二十五年、 選択はまちがっ 今日もそんなふうに思っている。

ことが苦にならない。 道は単調、 用事のある場所が広域にひろがっているわけでもなく、 運転の苦手な私でも出かける



ば地図は理解できる。 トは湯元へ通じる那須街道と、板室温泉へつながる板室街道、二本の道を中心に考えれ

けて下さるのもうれ 診療所は木造の民家風の建物、 体の調整はA治療院で鍼と気功を受ける。 しい 障子で仕切られた空間もほっとできる。 重いカゼの時などは、 湯元のM医師をおたずねする。 聴診器を当てながら語りか

M医院の帰りはたいてい茶臼岳のふもとの温泉神社まで足を延ばす。

西暦六三〇年に建立されたそうで、 謂れのある神社である

神殿めざして長い石段を上りながら、 時々立ち止まって大きく呼吸する。

周辺のシイやリョウブやコナラの大木を見上げると、 木々のあい だから突き抜けた空の向こうに

吸い込まれそうになる。

時のない 果てしない世界へ迷い込んだような不思議な感覚。

体の中にキレ イな空気がひろがっ て、 日常取り込んでしまったであろう諸 々が払拭され祓われ 7

くような特別な感覚。

すがすがしい気分が満ちてくる

上りきった所にある手水舎で手を洗い

清め、

口をすすいで拝殿

鳥居をくぐることは、 日々が改まり、 中和をもたらしてくれる

おいしい野菜をつくる人、 体調管理はA先生とM先生、 私が咀嚼できるほどのくらしが、 のどかな風景の中でたくさんすぎず、 憩い 心の調整は温泉神社、 に最適なカフェ、 ここにある。 気持ちの通う人々の営みがポツリポツリある。 ちょうど良い加減に恵まれてい 食材をていねいに調理する食堂も、 ン屋

Be The Place」。 ギ 稿を書いていたら、 監督作品。 ル 二〇一一年のパオロ・ ンもこの曲を歌うシーンで登場。 の由来はアメリカのロ なんだか良い映画なんです。 主演はショーン・ペン。 ヘッズの名曲「This Must この映画を思い出し カルの ックバンド、 デビッド・ タイ



遠くがキレイだった

23

展景 No. 96

## のことをつらつらと

ふじを

八十すぎて学ぶ書のあり文化 の日 清水か

生きるために学ぶという生涯学習時代を象徴するかのようないい ていて十分秋を感じさせる言葉だが、 の日」が季語となっている。 各地で文化の日を中心に文化祭が行われている。 俳誌「酸漿」に掲載された句を引用したが、 歳時記には季語として載せられていないようなので、 学ぶ楽しみを端的に表現した、 日本の 一つの風物詩にもなっている文化祭。 句である。 「文化祭」は季語めい まさに活き活きと

てから00年、文化祭が行われるようになってから50年と節目の年であり、 た形で行われた。 私が暮らしている山形県大江町でも11月2~ 4 日の 3日間 文化祭が行わ れた。 県民芸術祭とタイアッ 今年は 町 が発足 プ

皆さんによる子ども向け な3日間となった。 公民館の茶室では、ボランティア有志による茶席が設けられた。そのほ 書道、 生け花、 写真、 のお話し会や郷土の伝統食を振る舞う集いなども開催されて、 工芸品などの展示や吹奏楽、 コー ・ラス、 か、 剣舞などのステージ発表。 図書館ボランティアの 大変賑やか

な 成果を披露できるまたとない機会になっ 町民の皆さんがそれぞれ楽しみにして っていると感じているところである。 ている。 13 る 出展者、 まさに町民みんなで創り上げる手作 発表者の方々にとっ ては、 日 りの文化祭に 頃 の学習  $\mathcal{O}$ 

文化と一括りに言えば簡単だが、 文化の持つ概念は果てしなく広

のことを体育会系と呼んでいるようだ。 輩後輩とい も体育会系という言い方で、運動する人の有する特徴的な気質を表現することがある。 文化ということですぐ思い浮かぶのは、 った上下関係を重んじるとか、 対して文化会系という言い方があるのかどうかは分から 考えることより体を動かす方が性に合ってるといった人 学校の運動部と文化部である。 大学に行くと、 運動 例えば先 部

区別してきたことで、 てしまってい 運動も体育も立派なスポ て、 文化の意味や価値を狭めているように感じてい 文化と言えば、 ツ文化の範疇なのだが、 絵画、 書道、 音楽などの学校の部活動をイ 従来、 学校で部活動を慣行的に運動と文化 る。 メ 1 ジして語ら ń

で東に大きく進路を変えて村山盆地に流れ込んでい たいことがある 置賜地方から北流する最上川 (左沢楯山城) 中世から近世初頭、 町左沢は、 平成 があった。 最上川を見下ろす楯山には、 25  $\widehat{\stackrel{2}{0}}$ は、 13 五百川もがわ 年3月 峡谷を流れ下り、 玉 寒河江大江氏が築城したと言われる大規模な山 く。左沢はその曲がり端に位置している。 0 「重要文化 左沢楯 的 景観」 山城 の断崖に突き当たる。 に選定され た町 で あ

坂への年貢米輸送の便宜を図るため、 として発展してきた。 左沢は、上流米沢に向かう百俵積みの小鵜飼舟と下流酒田に向かう二百俵積みの艜船に戻する。 元禄・宝永年間  $\widehat{1}_{6}$ 88  $\frac{1}{7}$ 最上川 1)の頃に、 上流の難所を開 米沢藩 0 御用商人であった西村久左衛 削 して、 酒田に達する舟路 を開 の転換地点 いた。

の鉄道開通や数回に及ぶ大火などを経て、 近郊で産する青苧や紅花などの特産物が取引される場所 現在の街並みが形成された。 とし 7 町 が 発展

この街並みが価値あるものと認められ、 全国に65ある 「重要文化的景観」の3番目として国から選定を受けたのである 「最上川の流通・往来及び左沢 町 場 0 景観 0 名称 0

と言われ ても 何のことだろうと思われるかもしれな 61 認知され て W る か

かというと認知されていないとい うのが大方の見方だと思う。

風土により形成された景勝地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできない る制度が始まった。 (文化財保護法第2条第1項第5号)を文化的景観と規定し、 平成16年に文化財保護法が改正され、 「地域における人々の生活又は生業及び当該 文化財の新たな類型として保護を図 もの 地 域  $\mathcal{O}$ 

業、風土が生み出した価値のある景観」を うとする制度である。 法律の文言そのものなので、何とも分かりにくい表現になってしまっているが、 「重要文化的景観」 て認め Ź 国で保護を 要は 図 「生活と生 つ 7 11

定した形になっている。 価値ある建造物と認めた建造物の 「重伝建」と呼ばれる重要伝統的 保存地区 建造物群保存地区が指定され のうち、 特に価値 が高 13 b Ŏ を国 7 お ŋ (文部科学大臣 これ は 各市 町 が 認

島県下郷町の大内宿、 城下町 · 宿場町 秋田県横手市増田町の 門前 町などで、 岐阜県の 商家の街並みなど、 自川 郷 や富山 全国に118地区あるようだ。 |県の 五箇 Ш 集落、 東 北地方では

これに対 0 いうところに力点が置かれている。 ため して、 の能登大沢の 「重要文化的景観」 間垣集落なども選定されており、 は、 建造物に 例えば、 力点を置 今も米作りが行われている姨捨の棚田とか 1 第1号は 7 いる 0 ではなくて、 2 0 0 6 车 生業 1 月に選定を 0

は九州宮崎県日南市から北は北海道平取町まで100 今年の10月9日から11日までの3日間、 全国文化的景観地区連絡協議会が大江町で開催され、 人以上の参加があって、 大変賑やかであ つ

ものであることか。 化に感動を覚えた。 テレビのイ ラグビー ンタビュ ル 体と体が一つになり、 ーで、 カップで日本を初のベストエイトに導いた主力メンバーの ムにおける目に見えな 「俺たちのワンチー ー つ 11 の目的に向かって一つになる。 ムは4年間かかっ スピリチュアルな文化。 て創り上げた 文化とは何と素晴らし 「ワンチーム」 つの文化だ」と答 人稲垣啓太選手が の文

に果てしなく広い概念を有しており、 文化を云々するために縷々述べ てきて、 漠として見えないところがある 取り留めのな い話になってしまったが、

の時に公民館の清掃を一手に引き受けていた初老のIさんから、 もう30年以上前になるが、 町の公民館に社会教育主事として学校から派遣された時期があ

文化ってよく言うげんと、 何ば言うなだえ(何を言うのでしょうか)?」

似は、咄嗟の質問で戸惑ったが、

「次世代に残してい いものは全て文化と言うてしぇえなんねが (言っ て 11 11 んではな です

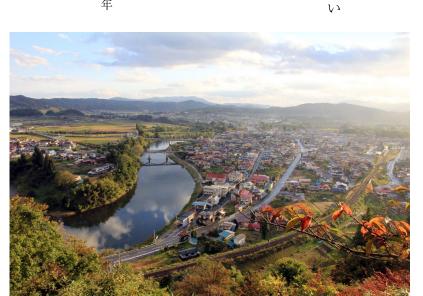
と答えた。

すると彼は、

とぼそっと呟いたことを思い出す。のですね)」のですね)」のですね)は金は文化んねなっだな(文化ではな

八千の町民こぞる文化の日 ふじを

10月、全国文化的景観地区連絡協議会「日本の原風景 文化的景観2019」令和元4献:俳誌「酸漿」1999年12月号



左沢楯山城史跡公園(日本一公園)

写真提供:大江町教育委員会

ある。 かったのは、 校に入って、 7 旧姓・安住典子さんもその いたし、行ったり来たり 小学校の 仲良 大学の 再会した時はすでに六十歳を過ぎていた。 しというものは、 理学部を出て、 いが多か 一人だった。 特別な理由でもなければ、 つ 女子高校の教師になり、 た記憶もない。 仙台市立上杉小学校をはさんで、 彼女は県立第一 第一 高女に進んだがむしろ連絡 独身で定年まで働い 進学先がちがうとつながりは 高女に進み、 私たちの家は東西に離 た相田春子さん は が途切 私立の 消える。 れな 女学

形にするわ 「定年で暇が できたから、 ح れまで行けなかった所に 11 ろ 11 ろ行 ってみるつも n な 000 n Ш

った旧友の消息を聞い 彼女が言ってきたのも二十年以 ているうちに、 上前だ。 思わず声をあげた。 Щ 形 市  $\mathcal{O}$ 61 わ ば 観 光 スポ ツ トを歩きながら、

安住さん なつか 1 る 0, 住所わ かる?」

ほとんど持たず、 がひょっこり現れ 彼女には忘れ難い思 日射しはぎらぎら暑く、 親の着物を仕立て直したモンペと上っ張り たのは、敗戦後一年もたたな 13 がある。 帽子はかぶっていなかった。 私が戦災孤児になり、 11 一九 四六年の夏だった。 伯母と二人で住んでい にたぶん三つ編み 当時 た住居に、 のおさげ姿だったと の女学生は制服など 典子さん

「いとこが 尚絅に入ったので、 きいてもらって、 やっと山田さんの居場所がわ か ったの

と彼女は言った。 クラス対抗でも市内の学校間競走でも、 細身で小柄。 にこにこしているが、 無口であまり目立たぬ子供だった。 13 つも選手にえらば れ 7 いたことが 印象 ただ脚

行った。 てく ど全くない時代である。 黙って立っていた。 てきた友達に一杯の水も出さず、 れた理由 高女は つ 17 あれからずっと典子さんの消息も知らずにきたが、 だっ 7 仙台駅 が 11 た。 ることに、 がに近 みじめな暗い せめてひと口かふた口のお茶菓子でもあるとい わからない。 恐らくは私を案じて来てくれたのだろう。 相田さん 空襲で全焼 顔もしてい 何を言 ありがとうも言わず別れ とのおしゃ ったらい てい ないことに少しほっとしたようにして、 た。 べ りで、 11 尚絅まで かも思い 私は つかず、 初めて気づいたのだった。 てしまったことが、 照りつける の焼け野 でも私は人から同情される 11 私はお入りなさい のに。 原 知らぬ の道を辿 どこの家にもお 道を三キ 自分の · つ て、 彼女は帰 とも  $\dot{\Box}$ 中 0) 言わ 消え Ġ やつ 0 0 な ず 7 な ね

31

立ち話だけ 手紙を書 でお帰ししたこと、忘れられずにいますと。 1 た。焼け跡の 知らない道を遠い .中島丁まで、もとの同級生を訪ねて下さったあなたを、

も見なければならない。 その後の電話でわかったのは、彼女がやがて第一高女から石巻高女に転校 十年前に夫を亡くし、 まるで女中よ、 独りで商売を続けていること。 あはははは、という話だった。 息子夫婦は 共働きだから孫たちの 女川 の海鮮問屋 面

ぎっしりと、 の姿かたちも想像できないし、共通の話題に何がい 気がつ で受話器をおい たことだが、 超上等品のまぐろのトロ三本、い 高級品ばかり入っ たが、年の暮れ、大きい段ボー 十二歳から六十代同士に一足飛びした電話の会話は妙 7 いた。 くら、 呆然とし ル箱が届いたのにはびっくりした。 いかもわからない。 数の子、 て声 も出な たらこ、 61 そのうちお会い 筋子、 なも ひらめ、  $\mathcal{O}$ が かれ しまし 箱の中には あ ょう 丰

「凄い 高級品をこんなに山ほど、 何事なの、 13 0 たい

どっ しり落ち着いた声で、彼女は笑った。

田 さん、あれはね、 あなたにあげたんじゃ ない の。ご両親にあげたのよ」

子供の私はもちろん、 当時の両親も知らなかったろうことを、 彼女は語った。

末っ子。 業を継ぐ 人を預けていた。 典子さんの父親は石巻の網元だか船主 親は子供の教育のために上杉小学校の近くに家を建て、叔母さんと女中さんに子供 のを嫌い大学を出るとジャワ島に渡り、 の長男か次男だった。 コーヒー 園を経営する。典子さんは兄三人 資産家である。 だがその父親は家 の下 たち 几 0

は本大好きの子供だった。 「うちには大人の文学全集も漱 山田さんとこには子供の本がたくさんあったじゃない」。 石全集もみな揃 9 てたわ。 でも子供 0 本は なか ったの その通りでし よね。

「だから 山 田 さんとこで、 あたしは小川未明も宮沢賢治も綴方教室もみな読んだのよ

気に入り ドカバーの ところが私はおぼえてい は 風 の又三郎』を買ってくれたのはおぼえてい 夕 パ <u>ン</u> ない のだ。 や 『家なき子』 彼女、そんなにうちに来てたかしら。 のような翻訳物だったから、 るが、 大して好きではなか 賢治は泥くさく思えた 父が装幀 の美し った。 0 ノヽ お

で、夕方暗くなっても動け 「今思えば、兄ば 心が疼いた。二人に聞かせたかった。 、とは一度もおっしゃらなかった。 かり三人で親はいない ない の。ご両親はいつもにこにこして優しかった。おそくなるからお帰 、 淋 忘れられない しかったんでしょうね。あなたの本棚の 0) お送りしたのは、 あの頃のお礼 前 に座 りこん

「仙台空襲のあとには、女学校の帰り、 あなたを捜して歩 61 たのよ」

た。そして小学校の友達のことは、 たぶん空襲の二、三日後だろう。 父の遺体は片付けら 全く知らなかった。 れ、もちろんそこに私が 11 ずも 0

らない。 ほ すっごくおい 上は無理と店を閉めた。 は、こんなに美味いまぐろは生まれて初めてだと大喜びだった。三年後、 三年続けて年の暮れになるとゴージャスなプレゼントは届いた。 っそり 国政選挙の季節がくると、 「こんなにたくさん、 の声を聞く。「そのうち会いましょうね」が決まり文句だが、 どっちも忙しいのだ。しかし、いずれその日があることを、二人とも疑いはしなか た子供は今や恰幅 しい んだから」と事も無げに彼女は言う。 それからは秋ごとにピチピチはねる銀色のサンマがどかんとくるようにな どうして食べるのよ!」。「近所に分ければいいじゃない。 彼女は身内の民主党の議員の選挙本部までやっているらしい。 の良い 一族を率いる大小母さまになってい 夏に私は桜桃を送る。 酒と美味な海の幸に いつになるやらちっとも るらしい 典子さん つまり とい は不況でこれ 刺身にすると、 年に二回 つの 眼 小柄な った。 わか にはお 11 以

想像してい た。 最後に彼女はご両親によろしく、 と必ず笑っ

あらわ 部の さんから「山田さんならわかるかも」と聞いたのだろう。 北の県の中では他県から逃れ 島の原子 しに家から一歩も出て行こうともしない今の自分! ん浮かべ、ようやく会えた私を見て、嬉しそうに笑ったおさげ髪の少女が心に浮かんだ。 かし今回ほど規模が大きく一万数千人もの生命をうばった津波を、 卒業以来、 一つであること以外、 国じゅうの心が被災地 れ、友人・知人も未知 一一年三月、 力発電所 どこにいるかも知らずにきた四人から、 の爆発まで同時に起きるとは想像を超えていた。 東日 本大震災が起きた。三陸海岸 伝える情報がない。新聞もネットも身元 に向いているのだった。不意に、ぎらぎら照りつける陽に汗をたくさ てきた人を迎えるほか、直接の被害は一番少なかった。第一高女に入 の名の間に出 てくる。生きて避難所に 情けないことだ。 には昔から 典子さんの安否の問い合わせがきた。 だが女川町もまた壊滅に瀕した三陸沿岸 裏日本に位置する 我々の世代は知らなかった。 いる人ばかりだ。これはほ のわかった人の姓名は所狭 かえし津波がや 山形県は、 9 てきた。 っと

ようやく高校の教師をして いるという彼女の息子さん の電話があ った。

「遺体がまだ見つから とも行方不明。 僕は職場に んのです。あの日、 11 た 息子たちは成人して女川 家には母親と僕の妻、妻の母と三人がいました。 には 11 なかった。 三人ともまだ瓦

## の下にいるんでしょう」

物狂 生きている者の記憶の中でだけ生き続ける。典子さん、あなたはそのことを教えてくれた。遠い親 族でさえもなかった友の親のことを。 かったことがわかった。なのに彼女は半世紀以上も昔の私の親たちを忘れずにいてくれた。死者は し回っている家族や地域の人々の姿。そして私は、典子さんの人生のほんの僅かの部分しか知らな そこで早口の電話は切れた。下の娘さんは新潟で家庭を持っていると聞いたことがあった。死に いで親たちを捜している典子さんの息子さん、 娘さんたち。 何万もの同じ姿の子供や親を捜

の母に会えたこと、 五月に入って、 娘さんから報せがあった。瓦礫の下ではあったが、 明るい誰にでも温かい人であったということを。 生前と変わらぬ安らかな表情

ど、ほんとにありがとう。 ちゅう忘れるにしても、 典子さん、 あなたに私ができることは生きているあいだ、あなたを忘れないことだけ。 それはごめんなさい。大きな笑い声、 ぴんぴんはねたサンマの銀色などな つ

二つのおさげをたらした少女のあなたを思いながら。



K N O 河村 郁子 小野澤繁雄

足早の人なりしかど橋の上に出水の跡を写真におさむ 10	わが庭に実りしブルーベリー酸く砂糖と煮詰めて極上のジャム 10	煮詰まつてさらに旨味が増してゆくカリフラワーと茸のスープ 10	あいたいとあってうれしいと叔母さんに時間煮詰まりとりとめもなし10	消費税10%に上がるとて華やぐらしも九月の銀座 9	プレミアム商品券のお知らせが母に届きてみかん色の空 9	兄妹で馬穴をのぞいているところオレンジの家庭に屈んで	黙黙と集団登校するなかにやさしき眸合はす子ひとり
月 16 日	月 12 日	月 9 日	月 4 日	月 30 日	月 25 日	月 19 日	月 15 日
Ο	K	N	Ο	K	N	Ο	K

山形は寂しくなりぬ旅立ちの河内愛子へうたふ讃美歌	雨上がり傘が干されてあるところ傘ばかりなる香港は雨	今日こそは令和の凩吹く予報 待てど小雨も風も治まる	燃えるとは今日の試合の逆転劇 山岸選手のハットトリック	焼け落ちし城跡みればそう昔でなくテンペスト読みしに及ぶ	天災も人災とても忘るなく見舞ひ来るなり 人智頼まむ	秋出水憂へしときに首里城が炎とともに崩れ落ちたり。**でみづ	橋脚の汚れいくすじ出水跡いつのものなれ今日は秋晴れ	颱風も置きみやげとて未曾有なり災害国土と自覚なさねば	雨上がり夜の散歩に出でたれば駅前ビルは霧に包まる
12 月 3 日	12 月 1 日	11 月 28 日	11 月 16 日	11 月 12 日	11 月 8 日	11 月 3 日	10 月 27 日	10 月 24 日	10 月 19 日
N	Ο	K	N	О	K	N	О	K	N

河村郁子

●担当医は笑顔にわ れを迎へくれすぐにパソコン画面に対ふ

端末。 迎へくれ、 その終始は、同時に五年間の思いの終始でもある。 連は 時間のなかに緊張があり、 解説も易しく 「再びの命」。 そうして、 (五首目)、 すぐにパソコン画面に対ふ。下句、 手術後五年間の経過観察、 腫瘍マ 緊張のなかでうけいれている、 ・カーも平常、 これはいつものことかもしれないが、 その検査結果を聞こうというところ。 「良いですね」となった 今は大抵こうで、 そういう場面。 システム化、 (六首目)。 検査結果 笑顔に(われを) 外来は総合外科。 パソコンはその (値や画像デー

「良いですね」腫瘍マーカーも平常と五年間を労ひくれる

同号短信に五年前の詳細を読むが、 瞬間が段階となり、 一つ一つが寛解までの時間の祝福にな 一連のさいごの歌 いってい . る。 作者とい 0 しょによろこびた

手術後の覚醒起立歩行へと再びの命押し頂きたり

## ●鉄線花目印となる叔父の家

谷垣満壽子

がいるともいらないとも、そんな距離感。 叔父は父母の弟のこと。 昔は、 よく近くに住む。 土地柄もみえるようだ。 親しい関係ではあるが、 目印となるような花が、ここでは鉄線、 61 くらか距離感もある。 目印

じぶんの場合でなら、 停車場とか釣瓶井戸である。 鉄線花が季語でもある。

大夕焼け弱き自分となりにけ

に向けた関与 がた、でもある。 大(夕焼け)から、 (の求め) 弱気もある。共感できる。 小さき、 か。 ここにも共感できるものがある。 ここでは弱き (自分) つぎの二つの句にみられるものは、 がみちびかれるようだが、大夕焼け、 動物の、 それも子ども で一日の終わ

公園のシ ソ - 降りる鴉の子

亀の子を歩ませたしと道にお

中国語、 英語、 日本語とび交ひて気功のポーズやや遅れ気味

布宮慈子

きに英語がつなぐ。 回想している。 武蔵野の端の団地の集会所に、 連「気功」では、 より具体的には、 三種類のコトバの飛びかう様子も目に浮かぶ。 中国 (人) の若き女性に、 習ったもの つぎの歌。 (ここまでで三首)。 (作者が) 中年に差し掛かるとき、 同時に、 以上のことから、 ポーズが遅れ勝ちなのだ。 ご近所 これ は四首目) の仲間ととも ط

鶴のポーズ、猫のポーズをとりながら 〈天の気〉 と ふをわが身に集む は、

なると云う、  $\hat{O}$ 若妻李 そのことで手遅れとおもう作者、 ij さんが妊娠を告げる場面、 が、それぞれ歌になっていて、 ナッツを食べることでおなかの子の 今の作者。 ア 夕 マがよく

蔵王山

に向かひて気功するわれは一本足の鶴になり切る

#### 胸を打つ言葉は 素朴草清

こんこんと湧き出る清水を目にして、 感動する言葉とい 麦秋やサリンジャー読む自由席 うも のは、 飾り気がないものだ。 言葉の誠実さに気づいた作者。清水の透明感が印象に残る一句。 言われてみれば、 である。 季語は「草清水」で夏

の取り合わせが清新な感じだ。 サリンジャーは『ライ麦畑でつかまえて』などで知られるアメリカ 公にも姿を見せない隠遁生活を送ったことで、 何かむかし読んだ本を列車の自由席で読んでいる。 謎が多い。 『フラニーとゾー 「麦秋」は夏の季語。 の小説家。 1 晩年は 麦秋とサリンジャ 『ナイン・ス 一切作品を発表せ

# 長雨と暑き日つづき引越しの荷の位置決まらずひと月過ぎ

Ш

ないだろうか。 に至らない。すでにひと月が過ぎてしまった。 引越しは終えたものの、 しか ï 次の歌が救いである。 長雨にたたられ、さらに暑い よくわかる歌である。 日が続いたり 段ボ して、 荷物をほどい ル が積み重なっているのでは て配置するまで

たる部屋を訪ねて友三人持ち来し昼餉に語ら ιV はずむ

を過ごした。持つべきものは友である。 いちばん大切だ。 まだ片づかない部屋に来てくれたのは三人の友達。 部屋は少しずつ片づければい 持参の昼食を食べながら話がはずんで、 0,1 食べて、 笑って、 そんな時 楽しい 時間 間

# 朝をでて朝を歩いて浅緑木下つながりに日影ゆきたり

小野澤繁雄

もしれない。「木下つながりに」は気になる字余り。 るのか。 調される。 いて」の「を」は主に短詩系で使われる表現。ここでは、 朝の散歩の様子だけを言っているのだが、 辞書には出てこないが、 浅と「あさ」の音のくり返しもリズム感を生み出す。 「木下闇」という語があるので、 不思議にひとりの人間の姿が見えてくる。 ここをもうひと工夫すれば、 朝がまるごと自分のものになったかの それに引きずられて使う人が多い 「木下」は、「こした」と読ませ いい歌になる。 「朝をでて朝を歩 ように強 のか

小さ子が声 、のかぎりに泣いている六月の風シャリンバイの

の風の中に聞こえ、生け垣なのか、シャリンバイの白い花が咲いている。幼子と花の白さが呼応して 咲かせるところからシャリンバイの名前がある。 ようだ。 いの 調べてみると「主に西日本に分布する常緑性の低木。 で道路 そういえば、「小さ子」は本誌のもと主宰者・布宮みつこが好んで使っていた語だった。 0 植え込みによく利用される」とある。三句切れの歌。 葉は濃緑色で光沢がある。 小枝を車輪状に出して、五月に梅に似た白 小さい子どもが泣き叫 常緑性で大気汚染や潮風 ぶさまが六月 13 にも

#### 級河川

### 小野澤繁雄

一つの川なら、川の名は一つと思っている。

て川は大きくなっ 所を流 れる市 ていくが、 野川 でも、 つど川の名前が一つ残る。 少し上流で滑川が合流するが、 そのあとも Ш の名 は 市野 Ш 合流

市野川橋もある。 に困ることはない 野川 の川沿い 橋のとっつき、 には町名で市ノ川 片側には、 があり、 濁音なし、 市の川小学校がある。 ひらかなの橋の名をみるので、 表記には違い がある。 橋の名の読 ίΞ は

くつ で通勤している。 三十に少し足りない年数をこのまちにくらしてい かの町名になってい ったのだ。 住んでいる町内は、元は大変な水田だったところを埋め立ててできたところで、 る。 これも近所の中学校が昨年四十周年なので、 る。 職場には近くなったが、 四十年前に多くが新興 越してきてか

車からは、よく新江川という川の名を眼にしていた。 示はみたことになる。 家を出てすぐのところ、 南斜面のすそに、 水路の大きいものとも小川ともみえる流れがあって、 通勤は一日のみではない ので、 何度もその表

んえがわ、だろうか。 ところで、どうも読み方が あの江 ハッキリ 川投手と同じ読み方だろうか。 しない。 新、とあるので別途江川があるのだろうか。 読みは

金沢にいったとき、 あるとき一級河川という表示にも眼がいった。 市内犀川に大きな看板で一級河川とあった。 さいしょから一緒にみて 17 たかも n な 11 が

川であるということには 犀川は県内に生じ、 距離にして二十キロ程度県内を流れてすぐ日本海にそそぐ。 何かそぐわないものがあるな、 とおもった。 あるいはおもっ それ ていた。 でも 級河

ことはしない 川となるともっとそうおもう。 でい 名前の読みも何も困ることがないことから、 ずっと確か

今は定年後で、時間があるといえばあることから、 ウェッブでしらべることをよくする

みは、 しんえがわ、 とあった。 延長3・4キロで、 荒川水系の一級河川とある

ここも同じ荒川水系に属 つ 7 11 していて、 地に、こちらの 当然のように一級河川となっ 方が多くのまちを通って ている。 11 るが 江 ÌЦ (えがわ) はあ ŋ

それで、 ここにきて一級河川 は、 その長さも、 見た目の大きさも関係ない、 ということだ。そん

なことがわかった。

になっている。 ちなみに川の識別には、 重要な水系に含まれ、国に区間を指定された支流が含まれる、ということになっている。 平均流量、延長、水系、 種別、 があり、 一級河川はこのうち種別のこと

になったということでもある。 しらべる気にもなかなかならなかったということでもあるが、 ようやく周囲に関心をもてるよう

### 「清紫会」だより

◆ 第 182 回 二〇一九年八月十五日(木)、会場・文京区立アカデミー音羽洋室A

〈提出作品〉なし

▼第18回 九月十九日 (木)、会場・文京シビックセンター四階シル バ センタ A会議室

〈提出作品〉なし

▼第84回 十月十七日(木)、会場・文京シビックセンター四階シル バー センター和室二

〈提出作品〉小野澤繁雄・台風十九号

展景 No. 96

比古

先生

のすこやかなお写真と記事が載

やってい

る。

曜

H

0

聞

0)

見出

しを見なが

らめくっ

てい

ると、

\_

11

b

0

を作

つ

7

17

く力」、

その

中で

「未来はわか

らない

から不安じゃ

なくて、

面白

いと思うこと

来ること、

考えることなどを面白い

と言えるように

しよう。

11

い」とあります。

私は年を重ねるごとに弱気になってしまう。

何ごとも割り切って、

ま

茂子

√人生 1 ~ 0 0 -ジ近い 年時代を生きる〉に ほどの スペ スに、 「思考こそ新 Ш 滋 展景 No. 96

る。 なっ 何か そんなことで気持ちも忙しい Ø てい な 洗濯機、 か つど置き場所を考えることになった。 が たが ったような無駄のことも考えてしまった。 転職 に伴 冷蔵庫など向こうで処分したものもあっ し切 0 て、 2 たということもない 同居することにな ようなところ。 いった。 0) 仕事から最終的にはなれて以降、 で、 久しぶりの同居で、 ここにきて、 数回に分けて、 今の生活は持ち たようで、 また少しば 引越 生活が一つになることで、 ものが多 緊張も少しある。 L の荷 かり片づ (V) が運 こちらも片 ということでも び込ま 小野澤 けることに づけ れ た

で、 気象ともいうべき陽気 ムシも異常発生して ◆台風19号が各地を襲 被災地 聞 の皆様には心からお見 が お 1, ŋ で、 ナメコ 大変な被害となってお  $\wedge$ クサ の出 舞い ム シ の名の 一来がよく 申し上げたい 如 く異様な臭い ないと聞く。 ŋ, と思う。 ひと月以上経った今も復旧 こちらは湿気不足であるようだ。 山形に大きな被害は が漂う気配である。 なか カメムシの多い ままならない つたが、 S 異常 力 メ

タクシ 風害水害を残し では半日で平 令和元年十月十二 五分ほど傘 7 しかし私は区 本州南岸沿 - に乗っ 车 て、 た。 0 13 上部を持って、 (D) 0) 健康診断 户 日に、 検査を終えた。 低気圧に大量 被害の修復どころか対策もたたぬまま二十五日には千葉県沖を通過 半世紀に一度ともい 力 月の雨量であったとか。 の日であ 吹き飛ばされそうになって歩き、 の雨雲を送ったため大雨に見舞わ 調剤薬局に寄り、 b, 九時ごろには雨脚も収まってい わ れる巨大台風19号が伊豆半島に上陸 十一時ごろ外に出ると激 老婆がテレビ沙汰にならなくて スー れた。 パ たし、 練馬区にも大雨警報 に飛び込 しい風 空腹 んだ。 雨に見 のため よかったと反 千葉県 た 21 号 途 舞わ 村郁 中で 有 が れ

災 13 は忘れた頃にやっ てくる」 は 間 違 11 では なか つ たか。 東日 本大震災の惨禍が 61 7 13

49

のよ 体調を崩 61 季節に 季節になってきました。 してしまいましたが、 突然二女を亡くして 台風や水害に遭われた皆様は大変なことと案じてい しまい 運命と思いこれから生きねばと思っ 生涯消えない深 61 悲しみを持ち続けることになり ています。 .ます。 谷垣滿壽子 は ま

聞にも で 検査もされず表示もないまま、 示を求める運動を始め 0 N 月 識者 H K ŋ 0 太っ のイン テレビ つなぐ仕事に たマ ダ 夕 0) 島根 ビ イやトラフグ 「クローズアップ現代」でゲ ユ 7 県松江市で海産物 入った人。 る。 記事が載るなど問題になっ 神の領域 食卓にのぼろうとしている。 など絶対に売 海を愛する気持ちは誰にも負け に踏み込む生命操作 0 産直をや りたくない 1 ム編集食品を取 . つ てい ている友人 る。 のだ。 M さん 賛否両論が述べられて 行き着く先はどこだろう 0 |本消 ない ŋ は島根原発反対運動 M さん 上げるか 費者連盟などは、 ゲノ から 、ム編集で ら見てと。 ラ ア いる ツ つくら から、 ク 最近 規制と表 れた 漁師

新野祐子 子

まった。 程度で大し る ラスの補強用に養生テー の大きな被害が出 でこわ た被害がな 地 11  $\mathcal{O}$ 0 Eている。 は風だと思って も早 0,1 プ そこで次 ところが千曲川をはじめ各地 なるものを買 11 復興を祈 いた。 の台風19号に備えてベラン n 事実、 なが いに走ったり ら、 台風15号では千葉県で強風で家が全 毎 日 したが、 0 河 ЭŬ ビ うちあたり 0 ダの物干 0) 大氾濫 ニュ 0 ス し竿を取り込ん ニュ 0 では街路樹の枝が に 釕 スを見て驚 ・半壊するなど it だり、 にな 松井淑 つ 17 れた て 7 窓

リア シー云々 確認する。 ってきたハ 0 中 フェ -学最後 ル タイ 残され イスブ を語 ホス ムでわかる 0 ル るの 大イ た私 ッ 家に クに ファ が は ば ベ ア 0 名前 ミリ プリをインストールし、 13 ば Tを駆使してさまざまな情報を検索し たとたん、 か を入力してみると、 20 の住所をグ 11 日間 ほ ニュ Τ 情報 では ・グル ジランド研修」 検索できな 瞬時 人の好さそうなご夫婦の写真が現れ アースに入力すると、 便名を入力し(いま、 に手に入っ V ^ کر さまざまな思 た。 息子 飛行 すぐさま大豪邸を指 石垣島の */*\ V. 間 ル 出 7 は新千歳空港 を、 13 あたり る旅客機 高揚 た。 し日 ね した表情 プラ 0 内裕 し示し などと か 1 5 で 7 バ

作れない るのはそう簡単なことではない。 本列島に上陸して、 ▼なんと 自体は忘れても作品は 力作。 11 つ ても台風 このとき重要なのは、 各地に豪雨災害をもたら の話題が多かった。 残るか 5 河村さんの短歌作品 あとになって読むと当時 一首 短信では大半の 一首 した台風19号につい の完成度より 「台風あとさき」は臨場感があ 人が、 のことがありありと浮かぶとい Ŕ 連作の て触れている。 十月十二日から十三日にか もつ勢いであろう。 しか Ĺ つ て、 作品にす 今しか ニュ うこと け で日

る。

短歌

0

効用である。

話題にの の長丁場だが、 年 ぼ 催 0 0 た ここで 0 Щ は、 形 国際ドキ 上映時間 か観ら ユ うれない 八時間 メ ンタ ij 十五分の王兵監督作品 と山形に来た人が多か 映画祭」が十月 十 った。 日から十七日 「死霊魂」。 この 映画は映画祭の最高賞を受 途中、 まで行われ 休憩を二回挟んで な か

音楽家による公開講座」 Ш 形大学の 地域教育文化学部では、 を開い て 11 る。 山 第 7 形交響楽団との連携による音楽教育推進事業として 回目はなんとチ エ IJ ス 指揮者で山形交響楽団の

のだとい りきっ ときに、 めてだが 館議場ホ 場は無料。 席客演指揮者でもある、 に交響楽団があることの幸せを感じた夜であった。 舞曲につ 組曲」よ 鈴木秀美さん て語ると客に場面 たとえば熊さん 61 うくだり。 り、 これは行ってみるしかない ル。 て、 般人が聞 とある。 スラー 趣のある小さなホール 0) この 話を聞きながら、 レクチャ いてもなんとか理解できる内容だった。 など楽譜の読み取り方・  $\wedge$ 鈴木秀美さん。 が見えてくるように、 八っつぁんとおかみさんの掛け合いと んは落語のようなノ 内容は、 チェ である。 ٤, 古楽を聴く人で知らない 市の 楽器と弓の変遷、 口 しも聴け 中心街 リで話と演奏をしてくださって、 ソロ 演奏の仕方、 プロ ーグラム るという贅沢 の演奏でもさまざまに想像しながら聴け へ出かけた。 は、 J・ ピッ カザルス以降の 圧巻だったのは、 して聴く、 チ、 人はい S ・ バ 夕方から 調律 地方都市 ない 落語家が何 ツ 楽譜 演奏史など。 */*\ 0 という人だ。 開催で、 作曲 に住む たい 楽器 (組曲 「無伴奏チェ 人もの の演奏を聴く へん面白か 会場は文翔 の伝承) どれ 人にな かも入 ば b 13 初 口 0 VI

でお元気だったと伺いました。 0 仲 間 である河内愛子さんが十一月二十 ご冥福をお祈り いたします 七 Ħ 八十九歳でお亡くなりになりました。 直前 ま

(布宮慈子)

53

#### muninokai.com

上記のサイトでは、フルカラーのオンラ イン版「展景」を公開しています。

> 編集・発行人 山形市上町二―一―七―二〇二 無二の会「展景」発行所 二〇一九年十二月十日 スタジオ・マージン

布宮慈子 発行

info@muninokai.com

季刊

展景 96号

Copyright © 2019 MUNINOKAI. All rights reserved.